



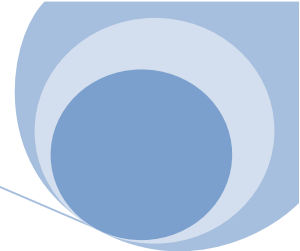
# 日本語教員養成プログラム ガイドブック

日本語教育を学ぶ人のために

2015年版

山梨大学教育人間科学部

日本語教員養成プログラム運営委員会



## I. プログラムの概要



新入生の皆さん、ようこそ山梨大学教育人間科学部へ！

山梨大学教育人間科学部には、教科教育のすべてのコースがありますが、その他にもいくつかの特色ある教育プログラムが用意されています。

「日本語教員養成プログラム」は、日本語教育について理論的かつ実践的に学ぶ**副専攻プログラム**です。グローバル化する現代社会で生きる力を備えた人材の養成を目的として、2008年度に山梨大学に新たに開設されました。

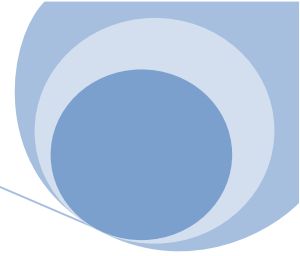
教育人間科学部の学生なら、コースを問わずだれでも受講することができます。小中学校、高等学校の教員を目指す人、国内外の日本語学校で日本語教師になりたい人、日本語や日本文化に興味がある人などを歓迎します。

### プログラムの背景と目標

このプログラムは、次のような背景と目標をもって運営されています。

- 日本語学校で日本語教師として働きたいという人、また青年海外協力隊などの国際協力活動に参加したい人にとって、日本語教育の基礎的な知識や技能を学ぶことができます。
- 日本の学校教育の現場で、日本語がわからなくて困っている子どもたちが増えています。小中学校や高等学校の教員を目指す人は、そのような子どもたちを支援できる知識や技能を身につけることができます。
- 現代の日本社会は、外国にルーツを持つ人たちとともに暮らす多文化社会へと急速に転換しつつあります。異なる言語と文化を背景に持つ外国人と共生できる社会を作るための前提となる知識を学び、生涯学習に生かすことができます。





## II. 基礎科目

このプログラムでは、日本語教育概論、日本語教授法、日本語学、言語学など、日本語について多角的に考察するための科目を学びます。ここでは日本語教育を中心に三つの分野の基礎科目を紹介しましょう。

### 日本語教育学

日本語教育を取り巻く歴史と現状、日本語を教えるための方法を学びます。また留学生や外国籍の子どもたちへ向けた日本語教育実習を行います。

日本語教育概論

日本語教授法 I/II

日本語教育実習 I/II

### 日本語学

日本語の文法、音声、文字表記、語彙など、日本語学の基本的な内容を学習します。高校までの国語とは異なる観点から、外国語としての日本語をとらえていきます。

日本語の文法

日本語の音声・音韻

日本語の文字・表記・語彙

### 言語学

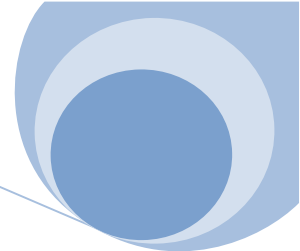
人間の言語一般の特徴について、ことばと社会、ことばと心理という観点から学びます。

関連科目として、国語学概論、英語学概論、中国語学概論などもあります。

社会言語学

言語心理学





## Ⅲ. 卒業後の進路

### 日本語教師になるために

国内の日本語学校に就職するための条件としては、次のようなものがあります。

- 日本語教育に関する大学・大学院を修了
- 専門機関で 420 時間プログラムを修了
- 「日本語教育能力検定試験」に合格

本プログラム修了は、日本語教育に関する大学修了の条件を満たし、プログラム修了者（28 単位を修得）には山梨大学から「修了証」が授与されます。また本プログラムの科目は日本語教育能力検定試験にも準拠しています。

### プログラム修了後の進路

#### A. 日本語学校

大学卒業後にすぐに日本語教師になれる人は少ないですが、現在、国内の日本語教師の需要は高まっています。本プログラム修了生のなかには、日本語学校で教えている先輩もいます（「先輩の声」欄参照）

#### B. 国内の公立学校

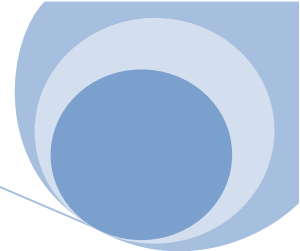
国内の公立学校で日本語を母語としない児童生徒に対する日本語指導を行うことができます。なお平成 25 年度から、外国籍児童生徒等への日本語指導は「特別の教育課程」として位置づけられました（「学校教育法 施行規則」）。

#### C. 青年海外協力隊

国際協力機構（JICA）が海外ボランティアとして「日本語教師」を派遣しています。本プログラムを修了すると日本語教育の副専攻相当の教育を受けたことを証され、広く応募の門戸が開かれます。

#### 日本語パートナーズ

国際交流基金アジアセンターが、2014 年から 2020 年までの 7 年間、ASEAN 諸国の教育機関に日本語授業アシスタントを派遣しています。このプログラムは、大学生も在学期間中に応募することができます！



## IV. 教員紹介

### 仲本 康一郎 (なかもと こういちろう)

教養教育センター (兼 教育人間科学部) 准教授

専門分野 日本語教育、認知言語学

担当科目 日本語教育概論、日本語の文法、言語心理学 等

### 長谷川 千秋 (はせがわ ちあき)

教育人間科学部 准教授

専門分野 日本語学 (国語学)、日本語の歴史

担当科目 社会言語学、日本語史

### 奥村 圭子 (おくむら けいこ)

国際交流センター 教授

専門分野 日本語教育、異文化間コミュニケーション

担当科目 日本語教授法Ⅱ、日本語教育実習Ⅰ

### 伊藤 孝恵 (いとう たかえ)

国際交流センター 准教授

専門分野 日本語教育、異文化接触

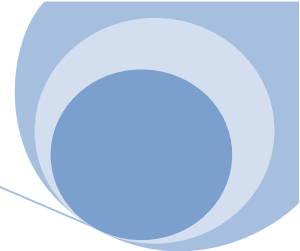
担当科目 日本語教授法Ⅰ、日本語教育実習Ⅰ

### 江崎 哲也 (えさき てつや)

国際交流センター 准教授

専門分野 日本語教育、音声学

担当科目 日本語の音声・音韻、日本語教育実習Ⅰ



## V. 質問コーナー

Q1. 日本語教師ってどんな職業ですか？

日本語を母語としない人たちに日本語を外国語として教える教師です。国内だけでなく、海外にもたくさんの日本語学習者がいます。日本語を外国語として教えるためには、国語教育とは異なる日本語教育の知識と技能が必要とされます。

Q2. どうすれば日本語教師になれますか？

いくつかの方法があります。ひとつは日本語教育に関する大学や大学院、または専門学校を修了すること。もうひとつは「日本語能力検定試験」に合格することです。このプログラム修了は前者の条件を満たします。

Q3. どんな人が参加できるプログラムですか？

教育人間科学部の学生ならだれでもいつからでも参加できます。ただし、最低 2 年はかかるので計画的に履修して下さい。できれば 1 年次か 2 年次からの履修を勧めます。修了までに最低 2 年間を必要とします。

Q4. このプログラムを履修することでどんな利点がありますか？

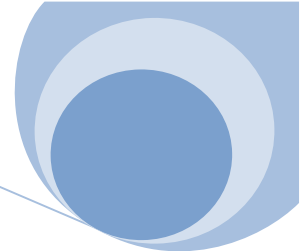
まず学校現場で日本語がわからない子どもたちを支援することができます。また障害児教育においても、ろうや難聴、知的障害の子どもたちの言語支援に役立ちます。さらに生涯学習（司書や学芸員）でも外国人住民への日本語支援が必要とされています。

Q5. 「国語」が苦手でしたが、大丈夫でしょうか？

大丈夫です。日本語教育はいわゆる国語教育ではなく、外国語として日本語を教える方法を学びます。学習内容も高校までの国語と異なるので、新たな気持ちでスタートすればいいと思います。

Q6. 具体的には、どんなことを学びますか？

日本語教育、日本語学、言語学といった基礎科目のほかに、教育学、心理学、政治、歴史、文学など幅広い領域を学びます。プログラムの最後には、本学の留学生や甲府市の外国籍の子どもたちに日本語を実際に教える体験もします。



## VI. 履修規定

履修科目は、《社会・文化・地域》《言語と社会》《言語と心理》《日本語教育》《言語》の 5 つの領域からなっています。これらの科目からプログラム修了に必要な単位数 **28 単位** を取得すると、山梨大学から「**修了証**」が授与されます。

### 必要単位数と必修科目

#### 必要単位数

プログラムを修了するには、《社会・文化・地域》から 2 単位、《言語と社会》から 4 単位、《言語と心理》から 4 単位、《日本語教育》から 6 単位、《言語》から 6 単位を修得し、さらに任意の領域から 6 単位を修得します。

#### 必修科目、選択必修科目

「日本語教育概論」「日本語教授法Ⅰ」「社会言語学」「言語心理学」は必修科目です。また「日本語の音声・音韻」「日本語の文法」「日本語の文字・表記・語彙」（2 科目選択）と「日本語教育実習Ⅰ」「日本語教育実習Ⅱ」（1 科目選択）は選択必修科目です。

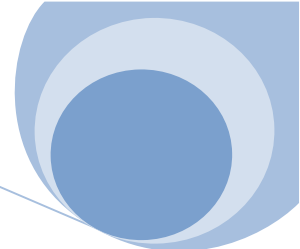
### 日本語教育実習

#### 履修申告

日本語教育実習を履修するまえに**日本語教育実習ガイダンス**に出席して下さい。ガイダンスに参加せずに履修申告をすると履修が取り消される場合があります。ガイダンス実施の日程と場所については CNS で通知します。

#### 履修順序

日本語教育実習を履修するには、「日本語教育概論」「日本語教授法Ⅰ」の単位を修得、または履修中であることを原則とします。これらの科目を履修せずに日本語教育実習を履修することはできません。



## 日本語教員養成プログラム 開講科目一覧

		必選	単 位	科目名	学年	担当者	授業内容キーワード
社会・文化・地域	世界と日本	1 科 目	2	日本文学概論(国)	2	大木	日本文学・文化
			2	日本古典文学史(国)	2	池田	日本文学・文化
			2	書写演習Ⅰ(国)	2	宮澤	書道
	異文化接触		2	日本史概説(社)	2	大隅	日本史
			2	生涯学習論(ブ)	1	栗田	生涯学習
			2	表象文化論(ブ)	2	沢田	異文化接触
			2	多文化教育論(ブ)	1	未定	多文化教育
			2	外国史概説(社)	2	皆川、堀内	世界の歴史
	2		哲学倫理思想史(社)	4	佐藤一	西洋思想	
要求単位数	2単位						
言語と社会	言語と社会の関係	1 科 目	2	社会言語学	1	長谷川	社会言語学全般
			2	障害児・者との共生(ブ)	1	渡邊	障害
	2		子ども文化論(家)	3	松本	子どもと文化	
	2		異文化間コミュニケーション(英)	3	秋山高	異文化間コミュニケーション	
	2		異文化理解Ⅰ(英)	3	アレン	異文化理解	
	2		教育学概論(ブ)	1	福井	教育政策	
	2		学校教育相談論(課共)	2	中澤	教育相談	
要求単位数	4単位						
言語と心理	言語理解過程	必	2	言語心理学	2	仲本	言語心理学全般
	言語習得・発達	1 科 目	2	児童期心理学(課共)	1	塚越	児童期の心の発達
			2	こどもと英語(ブ)	1	田中、奥村	初等外国語教育
	2		英語教育の諸問題Ⅰ(英)	1	古家	第二言語習得	
	2		生涯発達教育心理学(学共)	1	岡林	教育心理学	
	異文化理解と心理		2	青年期心理学(ブ)	1	尾見	青年期の心の発達
2			学校臨床心理学(課共)	2	酒井	臨床心理学	
要求単位数	4単位						
言語と教育	言語教育法・実習	必	2	日本語教育概論(ブ)	1	仲本	日本語教育入門
		必	2	日本語教授法Ⅰ(ブ)	1	伊藤孝	日本語教授法
		2	日本語教授法Ⅱ	2	奥村圭	教授法・教材研究	
		選必	2	日本語教育実習Ⅰ	3	→1	教育実習
	選必	2	日本語教育実習Ⅱ	3	仲本	教育実習	
言語教育と情報	2	2	情報科学入門及び実習	1	→2	PCソフト	
要求単位数	6単位						
言語	日本語の構造	2 科 目	2	日本語の文法	1	仲本	日本語の文法
			2	日本語の音声・音韻	1	江崎	日本語の音声・音韻
			2	日本語の文字・表記・語彙	1	仲本	日本語の文字・表記・語彙
	言語の構造 言語研究		2	日本語史(国)	2	長谷川	日本語史
			2	国語学概論(国)	2	長谷川	日本語学全般
			2	中国語学研究(国)	2	町田	中国語学
			2	英語学概論(英)	3	秋山高	英語学
			2	言語学概論(英)	2	秋山高	一般言語学
	コミュニケーション 能力		2	日英対照言語学(英)	2	秋山高	対照言語学
			2	英語会話(英)	2	野呂瀬	外国語運用能力
2	ポルトガル語入門(ブ)	1	加藤順	外国語運用能力			
要求単位数	6単位						
総要求単位数	28単位			28単位=14コマとして 14コマ×30時間=420時間			

1 奥村、江崎、伊藤孝 2 尾藤、小川、厚芝、武藤、加藤一

(ブ):ブリッジ科目

(学共):学部共通科目

(課共):課程共通科目

(国):言語教育コース国語教育系

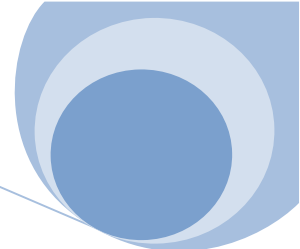
(英):言語教育コース英語教育系

(社):生活社会教育コース社会科教育系

(必):必修科目

(選必):選択必修科目





## VII. 時間割

本プログラムの科目は、ブリッジ科目や課程共通科目などが利用できるため、専門コースの履修と両立しやすいようになっています。ただしプログラム修了までに最短でも2年はかかります。専門コースの時間割と照らし合わせ、計画的に履修を進めて下さい。

### 基礎科目 時間割

プログラム基礎科目の時間割は次のようになっています。

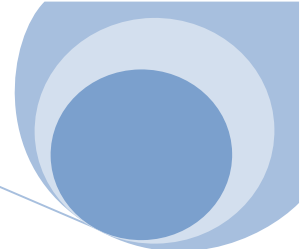
#### 前期 時間割

	月	火	水	木	金
I					
II					
III					
IV	社会言語学 (長谷川)			日本語教授法Ⅱ (奥村)	日本語教育概論 (仲本)
V			日本語教育実習Ⅱ (仲本)		

#### 後期 時間割

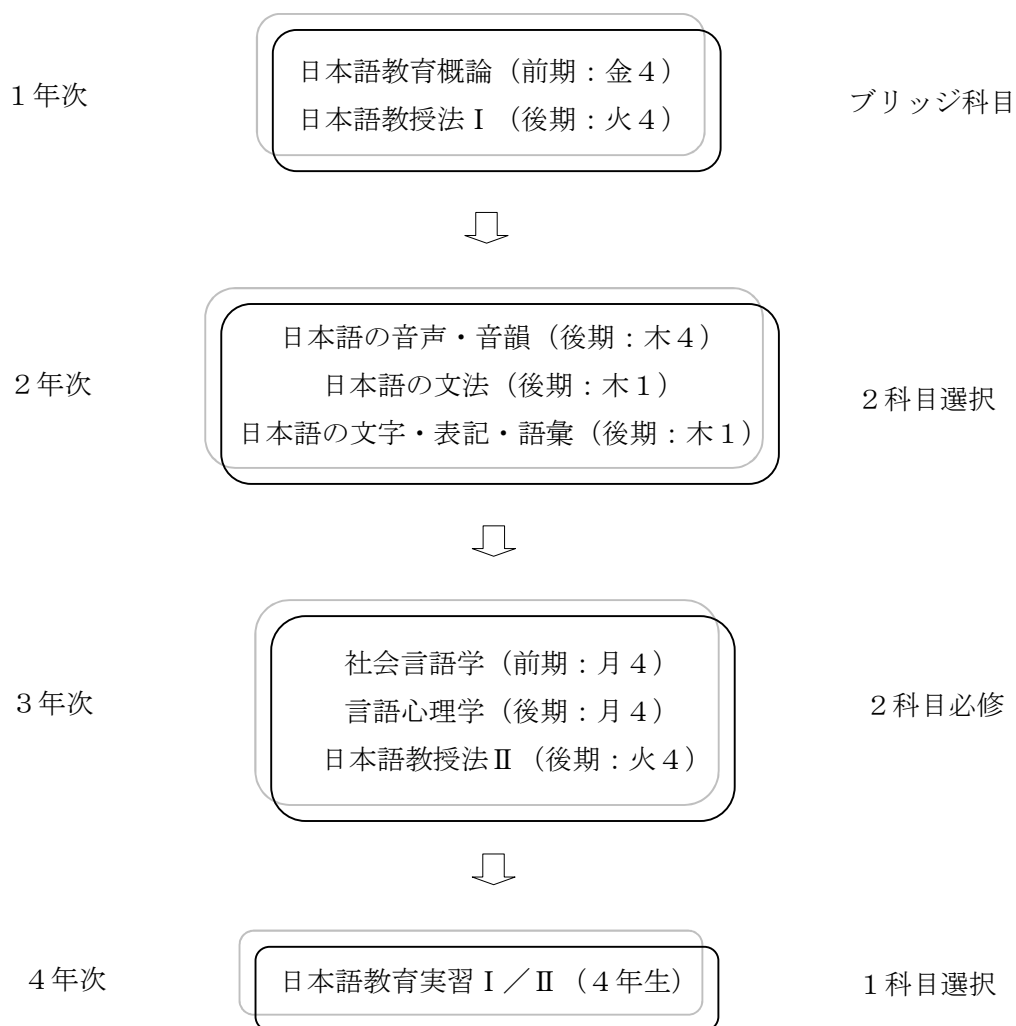
	月	火	水	木	金
I			日本語史 (長谷川)	日本語の文法 (仲本)	
II					
III		日本語教授法Ⅰ (伊藤)			
IV	言語心理学 (仲本)			日本語の音声・音韻 (江崎)	
V			日本語教育実習Ⅰ (奥村・伊藤・江崎)		

注)「日本語の文字・表記・語彙」は「日本語の文法」と隔年で開講します。



## VIII. 履修計画

日本語教育に関心を持てるかどうかまだわからないという人は、まずはブリッジ科目「日本語教育概論」の受講を勧めます。その後、続けてみようと思えば、同じくブリッジ科目「日本語教授法Ⅰ」や、その他の基礎科目へと進んでいくとよいでしょう。



山梨大学から日本語教育の専門教育を受けた証として「修了証」が発行されます！



終わった!!

## 修了生の声

## 海外の日本語学校で教えて



小林由依さん（2012年度卒業）

台湾に来てから、もうすぐ2年が経とうとしています。

2年前、大学卒業後すぐに台湾に渡来し、日本語教師デビューをしました。教師を初めてからというもの、大袈裟な話ではなく、本当に朝起きてから夜寝るまで年がら年中、日本語や授業の進め方について悩まされるような毎日です。でも、生徒との会話は勉強になることも多いし、授業をすると不思議と元気がもらえます。

直接法で日本語を教えています。はじめの頃は文法をかぎられた言葉のなかで教えることに精一杯でした。2年経った今、ようやく「先生」と呼ばれることにも慣れ、いい授業ができたと思えることも多くなりました。でも、やはり授業の前は毎回すごく緊張します。

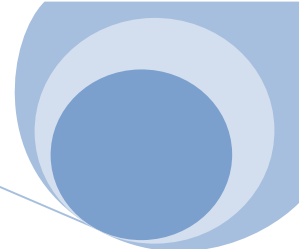
これまでわたしは50音クラス、初級クラス、検定対策クラスなど様々なレベルの学習者と一緒に勉強してきました。学習者が授業に求めるものは「十人十色」。この一言に尽きます。また年齢もバラバラだったり、男性だけだったクラスに突然女の子が参加することになった…なんてこともあります。それをクラスとしてまとめ、全員が満足できる授業にすることも、教師の役割のひとつなのかなと思っています。

また、現地で勉強する人は、学校や授業に来たときだけが日本語を話すチャンスという人がほとんどです。文法事項を正しく教えることももちろん大切ですが、習ったことを自分で運用できるよう、会話練習を中心にした授業づくりを心がけています。

教師という仕事を通じて、本当に様々な人たちと出会い、わたし自身も彼らから毎日色々なことを勉強させてもらっています。教師にとっても学習者にとっても、教室はまさに異文化交流の場です。わたしもまだ駆け出しですが、毎日日本語に苦しめられながらも、生徒さんの楽しそうな顔や日本語が上手になっていくのを見ると、この仕事をやってよかったなと思えます。



日本語学校で教える小林さん



## 修了生の声

### コンケン大学留学を終えて



川口 慧さん (2014 年度卒業)

2013 年、私は山梨大学ではじめてタイ王国コンケン大学に留学しました。大学では教育学部日本語教育コースというところに所属し、タイ人の学生とともに日本語教育について学びました。日本語教育の基礎知識や日本語の教え方の授業、また日本文化を教える実践など、さまざまなことを体験させていただきました。なかでも今回の留学の最大の収穫は、海外の日本語教育の現場を見ることができたということです。おそらく皆さんは海外でどのように日本語が教えられているのか想像もつかないと思います。タイでは小学校から日本語が教えられていることを知っていますか。また「えっ、こんな方法で教えていいの?」といった驚きもありました。教科書で学ぶだけではわからないことが外の世界にはたくさんありました。これらの経験は日本語教師を目指す私にとって貴重な体験となりました。

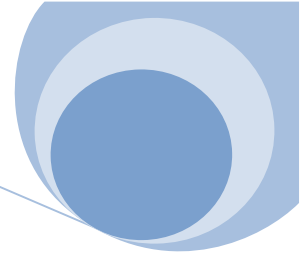
さらに印象的だったのは、タイで「日本が大好き!」という人たちに大勢出会ったことです。私が所属していた日本語教育コースの学生はもちろんそうですが、私がアシスタントとして教えていた小学校の子どもたち、町の人たち…、いたるところで「日本が好き!」という声を耳にしました。なかでも私の心に残った言葉があります。私がボランティアで日本文化を教えに行っていたある村の小学生が「私の夢はいつか日本に行くことです」と教えてくれた瞬間です。その輝いた目、眼差しから本当にそれがその子の夢であり、憧れであることが伝わってきました。日本語教師は日本語や日本文化を教えるだけじゃないんだということを改めて痛感しました。日本語を通して人々に希望を与えるということ、多くの人の夢をかなえられるよう努めることも大切なことだと思えるようになりました。

私は現在、コンケン大学での経験を活かし、日本語学校の非常勤講師としてキャリアをスタートさせています。拙い文章ですが、新入生の皆さんが日本語教育やコンケン大学に関心を持ってくれたら幸いです。

※ 山梨大学とコンケン大学は、大学間交流協定を結んでおり、相互交換留学制度があります。



日本文化を教えるクラスで



日本語教員養成プログラム 2015年度版

---

発行日 2015年4月1日

著者 仲本 康一郎

発行者 日本語教員養成プログラム運営委員会

発行元 山梨大学教育人間科学部  
山梨県甲府市武田4-4-37

---

Email [knakamoto@yamanashi.ac.jp](mailto:knakamoto@yamanashi.ac.jp)

電話 055-220-8272 (直通)

研究室 J416

---

© Koichiro Nakamoto, 2005

Published in Japan